

農作物の生育状況と技術対策について

令和 7 年 8 月 25 日現在
農業普及技術課農業革新支援担当

作目

主な品目の生育状況と技術対策

生育状況

- ・ 出穂盛期（50%の水田で出穂した日）は、平年より 2 日早い 8 月 1 日頃となったが、8 月上旬の降雨により出穂が進み、出穂終期（90%の水田で出穂した日）は、平年より 4 日早い 8 月 4 日頃になった。
- ・ 県内全域で間もなく収穫期を迎え、最も早い地域での刈り始めの目安は 9 月 2 日頃の見込み。
- ・ 農業用水の取水制限を行っていた一部の地域では、葉先枯れや出穂遅延などが見られている。

登熟状況等

- ・ 県全体では、 m^2 当り穂数が平年よりやや少ないものの、一穂平均もみ数が平年並となり、 m^2 当り総もみ数は目標としている 30 千粒を確保している。
- ・ 登熟状況を示す沈下もみ数歩合は、平年を上回っており、登熟は順調である。
- ・ 干ばつによる生育への影響が大きかったほ場では、一穂平均もみ数が少なくなっており、登熟は通常のは場と比較し、遅れぎみとなっている。

表 生育診断予察ほの登熟調査結果

	m^2 当り穂数 (a)			一穂平均もみ数 (b)			m^2 当り総もみ数 (a×b)			沈下もみ数歩合		
	本年 (本/ m^2)	平年 (本/ m^2)	平年比 (%)	本年 (粒/ m^2)	平年 (粒/ m^2)	平年比 (%)	本年 (千粒)	平年 (千粒)	平年比 (%)	本年 (%)	平年 (%)	平年差 (ポイント)
北上川上流	412	438	94	72.1	77.2	93	30.5	33.4	91	90.7	90.0	+0.7
北上川下流	429	461	93	71.1	70.6	101	30.6	32.4	95	92.9	88.7	+4.2
東 部	305	350	87	74.2	63.4	117	22.0	22.2	99	91.3	94.9	-3.6
北 部	450	500	90	62.9	65.2	97	30.4	32.4	94	91.2	87.2	+4.0
県 全 体	423	455	93	71.0	71.7	99	30.4	32.4	94	92.2	89.1	+3.1

※ 調査地点数は 22 地点。調査は、令和 7 年 8 月 22 日に 5 地点、8 月 25 日に 17 地点で実施。

技術対策

- ・ 刈り遅れは、胴割粒の発生等による品質や食味の低下につながるため、適期に刈り取りを行う。
- ・ 刈取適期は、積算気温を目安とし、黄化粳割合 80~90%に達したらテスト粳摺りを行い判断する。

水
稲

作目	主な品目の生育状況と技術対策
大豆	生育状況 ・ 少雨により葉が立ち、葉の裏面が見える症状が多くのは場で見られたが、畝間かん水の実施や8月の降雨により生育は回復傾向にある。現在は、子実肥大期となっている。 技術対策 ・ マメシンクイガと紫斑病の防除適期を迎えているので、莢に薬剤がよく付着するように薬剤散布を行う。
野菜	生育状況 【果菜類】 ・ 5月下旬の低温により出荷が遅れていたトマト・ピーマンについては、6月の高温により持ち直したものの、継続した高温・少雨により、トマトの花落ちやピーマンの尻腐れ果などが発生しており、8月20日現在の出荷量は、前年同期比で8割程度となっている。ピーマンの尻腐れ果はその後の降雨により減少傾向となっている。施設・露地ともにタバコガ類の発生が見られる。 【葉菜類】 ・ 雨よけほうれんそうは、8月上旬までは高温・少雨による生育停滞や播種作業の見合わせが見られたが、その後の降雨により生育は回復しつつある。 ・ キャベツは、高温・少雨により収穫物の小玉化が見られ、8月20日現在の出荷量は、前年同期比で8割程度となっている。7月下旬定植のは場では株の枯死が多く、一部は場では植え直しが行われたが、8月の降雨後に定植したは場の生育は良好。 ・ ねぎは、生育にやや遅れが見られるものの、8月の降雨により回復傾向である。 技術対策 【共通】 ・ 台風等の気象災害に備え、排水対策や強風に対する備えを徹底する。 【果菜類（施設）】 ・ 気象条件に応じたハウスの適切な温湿度管理（遮光、換気）、かん水管理で草勢維持をはかり、障害果の発生を軽減させる。 ・ 現在発生している病害虫と、湿度の上昇で発生が多くなる病害を中心に防除を徹底する。 【果菜類（露地）】 ・ 摘果・摘葉等の管理作業と、生育に応じた追肥や葉面散布を行い、草勢維持をはかる。 ・ 現在発生している病害虫と、降雨で発生が多くなる病害を中心に防除を徹底する。 【葉茎菜類】 ・ 雨よけほうれんそうは、適期に品種の切り換えを行い、べと病やハウレンソウケナガコナダニ等の病害虫防除を徹底する。 ・ キャベツ・レタスは、腐敗性病害、ヨトウムシ、オオタバコガ等の適期防除を行うとともに、適期収穫を行う。 ・ ねぎは、適期の土寄せと葉枯病（黄色斑紋病斑）等の防除を行うとともに、出荷計画を明確にして収穫時期の20～30日前に最終培土を行う。

作目	主な品目の生育状況と技術対策
花き	生育状況 【りんどう】 ・ 盆需要期向けの早生種は、高温・少雨による開花遅れや日焼け花の発生が見られ、盆需要期に出荷が間に合わない品種やほ場が見られた。 ・ 中生種、晩生種の開花が始まっている。 【小ぎく】 ・ 盆需要期向けの8月咲き品種は、高温・少雨により開花遅れが発生し、盆需要期に出荷が間に合わない品種やほ場が見られた。 ・ 彼岸需要期向けの9月咲き品種は着蕾が始まっており、少雨により草丈はやや短くなっている。 技術対策 【共通】 ・ ほ場が乾燥する前にかん水する。適期収穫と出荷選別を徹底する。台風等の強風に備え、ネットと支柱を点検、補強する。 【りんどう】 ・ 花腐菌核病、黒斑病、オオタバコガ等を適期に防除する。収穫後のほ場の病虫害防除を継続する。 【小ぎく】 ・ オオタバコガ、ハダニ類等の防除を徹底する。収穫後管理を適切に行い、健全な伏せ込み苗・株を確保する。

生育状況**【りんご】**

- ・ 少雨により果実の肥大が緩慢だが、8月上旬の降雨でやや回復傾向にある。ただし、「紅ロマン」は小玉のまま8月中旬に収穫期となった。
- ・ 高温により極早生・早生品種等で日焼け果が散見される。果肉の褐変や落果の発生は、多発年だった令和5年より少ない状況となっている。

【ぶどう】

- ・ 少雨により果粒の肥大はやや緩慢となり、高温により高糖度だが、着色の進みは遅れ気味となっている。
- ・ 8月上旬に降雨があり、急激な乾湿の差から一部の品種で裂果や縮果症の発生が見られ、摘粒で対応している。

技術対策**【共通】**

- ・ 適正着果量を遵守する。
- ・ 病虫害防除は、発生予察と適期の薬剤散布を徹底する。特に、高温により発生が助長されるハダニ類や果樹カメムシ類等の防除に留意する。

【りんご】

- ・ 葉摘みは、果面温度が十分に上昇した日中に実施する。極端な高温の場合、葉摘みを控えるか、夕方に実施し、過度な夏期剪定は行わない。
- ・ 早生種はすぐりもぎを基本とする。過度な着色を期待せず、食味を重視して収穫する。
- ・ 過去に収穫前落果が発生した品種について落果防止剤の散布を検討するが、各園地の発生実態や地域の集出荷・販売対応も考慮し判断する。

【ぶどう】

- ・ 過度な着色を期待せず、食味を重視した適期収穫を徹底する。過着果や弱樹勢の樹があれば、早めに着房数を見直し、着色の向上に努める。
- ・ 裂果を軽減するため、降雨時には過剰な水分を早期に排水できるよう根域周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなど対策を施す。
- ・ 雨よけハウス栽培では、高温が予想される日はサイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用するなど温度が上がりすぎないように努める。

作目	主な品目の生育状況と技術対策
畜産	生育状況 【牧草】 ・ 2 番草の収穫は 7 月末までにおおむね終了したが、高温・少雨により草丈はやや低く、収量はやや不良となっている。 ・ 一部ほ場では、夏枯れの発生が見られる。 【飼料用とうもろこし】 ・ 少雨による葉のよじれ・丸まりの発生が見られたが、8 月の降雨により持ち直しており、早い所では 8 月下旬から収穫を開始している。 ・ 少雨の影響が強かった一部地域では、生育不良や葉の枯れ上がりなどが見られる。 【酪農】 ・ 生乳出荷量は、7 月末までは前年並となっている（全農出荷実績）。 技術対策 【牧草】 ・ 裸地が多いほ場では、草地更新や追播作業を行う。 【飼料用とうもろこし】 ・ 収穫機械やサイロの点検、資材準備等を早めに行い、適期収穫に努める。 【乳用牛・肉用牛】 ・ 牛舎の暑熱対策を継続し、良質飼料給与や十分な給水などの体力回復に向けた飼養管理を徹底する。